

令和5年度第2回学校魅力強化委員会議事録

開催日	令和5年10月16日(月) 於 白石高校普通科キャンパス会議室
開催時間	15:30~17:00
出席者数	委員8名 事務局5名 教育振興課1名
出席者氏名	委員: 江口、内野、藤井、浪瀬、喜多、岡、門田、溝口 事務局: 平山、牧瀬、小川、谷口、野見山 教育振興課: 細國

4 議 事

(1) 会長挨拶

(2) 「総合的な探究の時間」プログラム作成について

先進校視察 報告

- ・宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校(普通科進路指導主任)
- ・宮崎県立都城商業高校(主幹教諭)
- ・宮崎県立飯野高等学校(主幹教諭)

(3) 地域連携活動 前期活動報告

- ・SAGA コラボレーション・スクール活動内容報告4月から8月(学校魅力化コーディネーター)

(4) スクールミッションについて

- ・本校のスクールミッション、スクールポリシーの説明(校長)

(5) 意見交換(本校に求めるもの)

委員7: 本校生徒には、地元の小中学生達の手本や憧れの存在になってほしい。そのような存在になることで地域の子供たちが白石高校に行きたいと思うのではないかな。

委員6: 本校生徒はとても素直な生徒が多く、地域のボランティアなども積極的に参加してもらっている。町内出身の白石高校生が少なくなってきたと聞いているが、できれば多くの地元の子供達に通う高校になってほしい。地元からの入学者増の秘策が欲しい。

委員5: 報告書で、子どもたちが様々な体験をしていることがよくわかり非常に素晴らしい取り組みをされていると感じた。このような事業で、計画・実践・反省し、課題を見つけるというサイクルを作っている。これはとても大切。地域とどのように連携しているのか、生徒も職員も大変だろうと推察する。ただ、我々が困っていることは、祇園祭、おくんち、馬頭観音祭りなどの伝統芸能や伝統行事に子どもたちや若者の参加が非常に少ないため、伝統継承が危うくなっているということ。とくに高校生の参加が少ない。そのような地域の伝統行事に積極的に参加していったらどうか。参加することにより、その重要性や継続していくことの大切さ等を学ぶのではないかな。

また、白石高校の魅力は何かを考えたとき、義務制にはない高等教育が非常に重要かと思う。社会人になるため、大学に行くための高等教育に何が必要かを考え、白石高校独自の魅力を考え出していただければと思う。

委員3: これまでの活動を見て、生徒はとても頑張っていると感じた。商業科はこの取り組みを続けていけば地域に根差した学校になっていくのではないかな。問題は普通科。普通科はどのような活動がやれるのか考えたが、やはり商業科と同じように地域と関わっていくことが良いのではないかな。ただし、「できる範囲で」というのが前提。先進校視察の報告のように、毎週水曜日に学校を出ていく活動などは難しいとは思いますが、他県の高校の活動を参考にしながら白石高校独自の取り組みを考えてほしい。

委員2: 商業科と普通科が合併するという変化の中でこれだけのことを行っているということはすごく努力をされていると感じる。佐賀県という小さな県が、県の中で人材を育成するしかない、その典型的な学校として誇りを持っていいのではないかなと思う。

スクールミッションを考えたときに思うことは、地域から期待される学校であってほしいと

いうこと。生徒・職員・保護者・地域が「輪」となることが大切。行事やボランティアなどに生徒が参加することにより地域と繋がりができるし、そのことによって地域も学校に協力するし、期待される学校となる。また、生徒も地域で活動した時に、部活動と同じように、やってよかった等、達成感を味わえると思う。

しかし、只々繋がればいいというわけではなく、繋がっていることで課題もつきつけられるが、その課題に対して真摯に答えていくという人間性が問われる。知的にも、相手に対する配慮など、心身ともに鍛えていかなければならない。今は、「良い大学に入りましょう」「いい資格を取って良い会社に就職しましょう」という求め方ではなくなっている。高校の段階できちんとした体験をさせることで、人としての成長ができる、学校はそういう機能が果たせると思う。

委員1：私の意見であるが、前回の当会の中で、地域を「白石高校の魅力を発信していく場だと積極的に捉えてはどうか」と申し上げた。まさに今、学校にとって地域は、そういうアピールができる場所、お客様がいる場所としてもう一回捉え直してほしい。そうしないと地域から入ってくる生徒が増えていかない。地域に選ばれる学校になっていくべきだと改めて思った。

地域の人を「お客様」と考えると、マーケティングと訴求が必要になってくる。マーケティングの基本は、まずお客様について知ること。地域にいる人達や地域の課題等、地域を知ることがベースにくる。そして訴求。訴求というのはPRすることだが、学校のPRをしなくても、生徒が地域を手伝うことでPRできる。具体的な活動ではないところで「白石高校生は良い生徒たちだ、お手本になる」と思ってもらえる。地域を学びの素材にして、「地域を知る、地域課題に対して解決案を提案する、地域に貢献する」ということが、お客様である地域に対して発信していく、訴求していくということに繋がるし、総合的に学ぶということになる。

また、パンフレットに「夢を形に」とあるが、地域を知るときにポジティブに向かい合っほしい。そのためには、今まさに関わってもらっている江北の Belly Button の人たちや大町の公門さん、須古地域づくり協議会など、地域にいる積極的な大人、夢を持って取り組もうとしている人、まだまだ地域は良くなると思っている人から入ってもらいたい。入口となる地域の人が夢のある大人であれば、楽しく地域課題に取り組めると思う。現在、それをうまく見つけていただいていることが、現在うまく行っている要因だと思う。

本会のまとめであるが、白石高校生には、地元の子どもの手本や憧れる姿というのが望まれている。そして「選ばれる学校」となっほしい。そのための地域活動だが、夢のある大人を接点としつつ、地域課題に対してどういう提案をしていくか、貢献していくか、訴求していくかが課題で、それが選ばれることに繋がっていく。「地域」を課題に据えた取り組みを地道に行っていくということが大切である。

また、普通科の取り組みをどうしていくかが一つの課題。学力が問われる中、地域活動をどうしていくかという難しさがある。外に出ていかずに、学びとしての地域との関りをどうしていくかがこれからの課題であるようだ。カリキュラム上の地域との向き合い方、地域との接触、アウトリーチでない形、それが高度な形、求められることの一つであり、今後の課題である。

地域の課題というのは答えは出ないので、総合的に学ぶ題材としては大変いい素材である。我々が学生の時は、勉強することと仕事することは全く別物だと捉えていたが、今は同じことだと捉えられ始め、求められ始めているようだ。企画力、リサーチ力、コミュニケーション能力、リポート力など、仕事に必要な能力が学びで求められ始めている。その学びの場として「地域」は最適である。地域を題材として学び、地元の子供たちが憧れる生徒を育ててほしい。

事後措置	朝礼時報告	○	職員会議にて報告	校内 LAN にて広報	職員向け配布物机を利用して広報する。
	その他（ 学校 HP に掲載 ）				